

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月11日

上場会社名 フジ日本精糖株式会社  
 コード番号 2114 URL <http://www.fnsugar.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江口 達夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部本部長 (氏名) 福田 弘  
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日

上場取引所 東

TEL 03-3667-7811

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	7,781	—	635	—	695	—	298	—
20年3月期第2四半期	6,562	3.8	637	20.6	740	17.1	541	43.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	10.91	—
20年3月期第2四半期	19.77	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
21年3月期第2四半期	18,013	—	11,415	—	63.0	414.05
20年3月期	15,020	—	11,306	—	75.3	414.41

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 11,349百万円 20年3月期 11,306百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金					年間
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	円 銭	
20年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00	10.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	8.00 ～10.00	8.00 ～10.00	8.00 ～10.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,000	30.4	950	△12.1	1,050	△18.8	650	△20.9	23.79

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

## 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有  
 新規 1社(社名 ユニテックフーズ株式会社) 除外 1社(社名 )  
 (注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの  
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 ② ①以外の変更 無  
 (注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)  
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 29,748,200株 20年3月期 29,748,200株  
 ② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 2,336,276株 20年3月期 2,465,387株  
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 27,318,456株 20年3月期第2四半期 27,406,484株

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。
2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、米国におけるサブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱や穀物相場の高騰、原油や原材料価格の一段の高騰により、企業収益は悪化傾向にあり、設備投資の減少や個人消費の停滞もあり景気の減速感が強まる中で推移いたしました。

このような環境下、当社グループは、「食の安全」への要請が高まるなか、食品会社として相応しい工場環境創りに努力し、安心・安全な製品の安定供給を最重要課題として取り組んでまいりました。また、本年5月株式取得により子会社となりましたユニテックフーズ株式会社とのシナジー効果を高め、機能性素材分野での事業展開を拡大し、加速すべくアプリケーション開発等に鋭意取り組んでまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高7,781百万円、営業利益635百万円、経常利益695百万円、四半期純利益298百万円となりました。

事業の種類別セグメントの状況は以下のとおりであります。

## (1) 精糖事業

精糖事業につきましては、春先以降、小麦粉やとうもろこしなど原材料の高騰により、一部ユーザーが商品を値上げ、また、ガソリンの高騰による観光や外食などの手控えにより砂糖の消費が落ち込む懸念がありました。飲料メーカーなどの新たな需要もあり、前年並みの販売量となりました。このような状況の中、当社は安定供給と顧客第一の営業に努め、業務用グラニュー糖の売上数量が増加した結果、売上高は6,031百万円、営業利益474百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間の海外原糖相場の推移は以下のとおりであります。

ニューヨーク市場現物相場 (USセント/ポンド当たり)

期初	高値	安値	期末	平均
13.30	16.13	11.54	15.05	14.11

当第2四半期連結累計期間の国内製品市況の推移は以下のとおりであります。

東京市場現物相場 (上白大袋1kg当たり)

期初	期末
154～155円	160～161円

## (2) 機能性素材事業

機能性素材事業につきましては、機能性食品部門は引き続き、脂肪代替機能を中心としたイヌリンの用途開発、認知度向上および副産物の売価アップに努めました。また、同部門の仕入商品に関しては、原材料価格の急激な上昇によりユーザーの購買意欲が衰えたことから取扱数量は減少いたしました。食品添加物部門は受託業務は順調に推移しましたが、自社開発商品は、計画に達することはできませんでした。切花活力剤部門は家庭用製品および流通向け新製品の販路開拓に努力を傾けましたが、諸物価高騰による消費者の節約志向が強まる中、切花の消費環境は非常に厳しい状況で推移しました。

なお、当第2四半期連結会計期間よりユニテックフーズ株式会社の業績が加わった結果、売上高は1,419百万円、営業損失29百万円となりました。

## (3) 不動産事業

不動産事業につきましては、既存物件の賃貸が順調に推移した結果、売上高は329百万円、営業利益288百万円となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (1) 資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ19.9%増加し18,013百万円となりました。これは主に、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間において、株式取得し子会社となりましたユニテックフーズ株式会社の新規連結による影響であります。

## (資産)

資産につきましては、流動資産で前連結会計年度末に比べ33.7%増加し7,116百万円となりました。これは主に新規連結による受取手形及び売掛金、たな卸資産の増加等によるものであります。

また、固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ12.4%増加し10,896百万円となりました。これは主に、新規連結によるのれんの計上によるもの等であります。

## (負債)

負債につきましては、流動負債で前連結会計年度末に比べ130.2%増加し4,749百万円となりました。これは主に新規連結による買掛金の増加、短期借入金増加等によるものであります。

また、固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ11.9%増加し1,847百万円となりました。これは主に、新規連結による長期借入金増加等によるものであります。

## (純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1.0%増加し11,415百万円となりました。これは主に、四半期純利益の計上、新規連結による少数株主持分の計上によるもの等であります。

なお、自己資本比率は前連結会計年度末より12.3%減少し、63.0%となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ521百万円減少し、1,268百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、377百万円となりました。

これは主として、税金等調整前四半期純利益の計上や、預け金が減少したこと等によるものであります。

## (ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、1,538百万円となりました。

これは主として、子会社株式の取得による支出等によるものであります。

## (ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果得られた資金は、639百万円となりました。

これは主として、短期借入れによる収入等によるものであります。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年6月20日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

今後の見通しにつきましては、米国に端を発した金融危機の影響による実体経済への波及が懸念される等、先行き厳しい状況が予想されます。これら各事業を取り巻く市場環境の動向を見極めながら、対処していくことで業績の向上に努めてまいります。

## 4. その他

## (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

当第2四半期連結累計期間において、新たに以下の会社が連結子会社となりました。

名 称	住 所	資本金 (千円)	主要な 事業内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ユニテックフーズ株式会社	東京都中央区	300,000	機能性素材	89.3	役員の兼任…2名

## (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

1. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

2. 通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来、主として先入先出法による原価法によっておりましたが、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

## 5. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,149,777	1,481,233
受取手形及び売掛金	1,511,158	626,815
有価証券	121,965	311,920
商品及び製品	1,228,436	389,684
仕掛品	104,348	100,782
原材料及び貯蔵品	884,926	646,961
預け金	—	1,164,582
その他	2,119,184	601,634
貸倒引当金	△3,020	△500
流動資産合計	7,116,776	5,323,113
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	730,785	688,666
機械装置及び運搬具(純額)	206,338	227,538
土地	2,048,834	2,048,834
その他(純額)	73,789	54,896
有形固定資産合計	3,059,748	3,019,936
無形固定資産		
のれん	1,141,187	—
その他	86,605	68,976
無形固定資産合計	1,227,792	68,976
投資その他の資産		
投資有価証券	4,773,318	5,027,848
その他	1,858,586	1,648,419
貸倒引当金	△23,016	△67,602
投資その他の資産合計	6,608,888	6,608,665
固定資産合計	10,896,430	9,697,578
資産合計	18,013,206	15,020,692

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	919,817	89,997
短期借入金	2,364,830	922,000
未払法人税等	256,103	307,669
賞与引当金	104,659	78,963
役員賞与引当金	6,420	12,890
その他	1,098,079	651,713
流動負債合計	4,749,909	2,063,234
固定負債		
長期借入金	583,700	400,000
退職給付引当金	595,385	615,713
役員退職慰労引当金	93,037	74,100
持分法適用に伴う負債	120,411	108,322
その他	454,779	453,078
固定負債合計	1,847,313	1,651,214
負債合計	6,597,222	3,714,448
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,524,460	1,524,460
資本剰余金	2,508,277	2,499,950
利益剰余金	7,583,434	7,558,261
自己株式	△547,921	△576,683
株主資本合計	11,068,249	11,005,988
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	285,977	306,327
繰延ヘッジ損益	△4,416	△6,072
評価・換算差額等合計	281,561	300,254
少数株主持分	66,172	—
純資産合計	11,415,984	11,306,243
負債純資産合計	18,013,206	15,020,692

## (2) 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	7,781,040
売上原価	5,779,986
売上総利益	2,001,054
販売費及び一般管理費	1,365,872
営業利益	635,182
営業外収益	
受取利息	26,272
受取配当金	38,841
持分法による投資利益	24,519
その他	6,828
営業外収益合計	96,461
営業外費用	
支払利息	17,356
匿名組合投資損失	15,072
その他	3,550
営業外費用合計	35,978
経常利益	695,665
特別利益	
投資有価証券売却益	5,183
貸倒引当金戻入額	2,500
その他	26
特別利益合計	7,710
特別損失	
減損損失	15,808
投資有価証券評価損	171,126
その他	2,908
特別損失合計	189,843
税金等調整前四半期純利益	513,532
法人税、住民税及び事業税	255,674
法人税等調整額	△43,590
法人税等合計	212,083
少数株主利益	3,447
四半期純利益	298,001

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	513,532
減価償却費	75,292
のれん償却額	24,280
減損損失	15,808
賞与引当金の増減額(△は減少)	11,171
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△6,470
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△45,471
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△20,328
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	5,430
受取利息及び受取配当金	△65,114
支払利息	17,356
持分法による投資損益(△は益)	△24,519
投資有価証券売却損益(△は益)	△5,183
投資有価証券評価損益(△は益)	171,126
売上債権の増減額(△は増加)	130,834
たな卸資産の増減額(△は増加)	△280,811
預け金の純増(△)減	1,164,582
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△1,059,145
仕入債務の増減額(△は減少)	△50,144
その他	22,503
小計	594,729
利息及び配当金の受取額	111,237
利息の支払額	△21,050
法人税等の支払額	△307,506
営業活動によるキャッシュ・フロー	377,409
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△56,627
有形固定資産の売却による収入	100
無形固定資産の取得による支出	△17,275
投資有価証券の取得による支出	△105,635
投資有価証券の売却による収入	85,283
長期貸付金の回収による収入	195,339
長期貸付けによる支出	△330,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,282,345
子会社株式の取得による支出	△27,405
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,538,566
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入れによる収入	985,000
長期借入金の返済による支出	△109,470
自己株式の取得による支出	△8,405
自己株式の売却による収入	45,493
配当金の支払額	△272,828
財務活動によるキャッシュ・フロー	639,790
現金及び現金同等物に係る換算差額	△44
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△521,411
現金及び現金同等物の期首残高	1,790,154
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,268,742

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	精糖 (千円)	機能性素材 (千円)	不動産 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	6,031,972	1,419,150	329,918	7,781,040	—	7,781,040
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	138	555	693	(693)	—
計	6,031,972	1,419,288	330,473	7,781,734	(693)	7,781,040
営業利益 又は営業損失(△)	474,501	△29,377	288,007	733,131	(97,948)	635,182

(注) 1 事業区分の方法は、内部管理上採用している売上集計区分によっております。

2 各事業の主要な製品または業務

(1) 精糖 …………… 精製糖、液糖及び糖蜜

(2) 機能性素材 …… 食品添加物、切花活力剤、イヌリン及びペクチン等の機能性食品素材

(3) 不動産 …………… 不動産賃貸等

3 営業費用のうち、消去または全社の項目に含めた配賦不能営業費用(97,948千円)は、親会社の管理部門及び研究開発室での各事業の研究開発に係る費用であります。

4 当第2四半期連結累計期間にユニテックフーズ株式会社を子会社化したことに伴い、機能性素材事業において資産の額が前連結会計年度末と比較して2,168百万円増加しております。

[所在地別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

在外子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。



## 「参考資料」

## 前年同四半期に係る財務諸表

## (1) (要約) 前中間連結損益計算書

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	
区分	金額(千円)	
売上高		6,562,695
売上原価		4,776,097
売上総利益		1,786,597
販売費及び一般管理費		1,149,528
営業利益		637,069
営業外収益		
受取利息及び配当金	69,792	
その他	44,384	114,177
営業外費用		
支払利息	9,476	
その他	1,678	11,154
経常利益		740,092
特別利益		106,550
特別損失		58,804
税金等調整前中間純利益		787,838
法人税等		246,092
中間純利益		541,745

## (2) (要約) 前中間連結キャッシュ・フロー計算書

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	
区分	金額(千円)	
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益		787,838
減価償却費		65,127
賞与引当金の減少額		△313
役員賞与引当金の減少額		△5,393
貸倒引当金の減少額		△13,008
退職給付引当金の減少額		△6,246
役員退職慰労引当金の増加額		3,325
受取利息及び配当金		△69,792
支払利息		9,476
持分法による投資利益		△29,536
投資有価証券評価損		27,630
固定資産売却損益(△は益)		△77,381
売上債権の増加額		△1,428
たな卸資産の減少額		113,815
預け金の減少額		561,797
その他流動資産の増加額		△848,088
仕入債務の増加額		9,266
その他		149,253
小計		676,340
利息及び配当金の受取額		100,162
利息の支払額		△8,682
法人税等の支払額		△222,834
営業活動によるキャッシュ・フロー		544,986

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額(千円)
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の売却による収入	163,278
有形固定資産の取得による支出	△46,515
無形固定資産の取得による支出	△200
投資有価証券の売却による収入	212,284
投資有価証券の取得による支出	△168,738
長期貸付金の回収による収入	128,081
長期貸付けによる支出	△310,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△21,810
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増加額	△100,000
長期借入金の返済による支出	△71,000
自己株式の取得による支出	△14,360
自己株式の売却による収入	1,885
配当金の支払額	△219,344
財務活動によるキャッシュ・フロー	△402,820
現金及び現金同等物に係る換算差額	127
現金及び現金同等物の増加額	120,482
現金及び現金同等物の期首残高	1,818,795
現金及び現金同等物の期末残高	1,939,277

## (3) セグメント情報

## [事業の種類別セグメント情報]

前中間連結会計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

	精糖 (千円)	機能性素材 (千円)	不動産 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	5,761,534	462,774	338,386	6,562,695	—	6,562,695
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	132	555	687	(687)	—
計	5,761,534	462,907	338,941	6,563,383	(687)	6,562,695
営業費用	5,304,562	488,486	41,573	5,834,621	91,004	5,925,625
営業利益 又は営業損失(△)	456,972	△25,578	297,367	728,761	(91,691)	637,069

(注) 1 事業区分の方法は、内部管理上採用している売上集計区分によっております。

2 各事業の主要な製品または業務

(1) 精糖 …………… 精製糖、液糖及び糖蜜

(2) 機能性素材 …… 食品添加物、イヌリン及び切花活力剤

(3) 不動産 …………… 不動産賃貸等

3 営業費用のうち、消去または全社の項目に含めた配賦不能営業費用(91,691千円)は、親会社の管理部門に係る費用及び研究開発室に係る費用であります。